3

大津再発見　さざなみの滋賀の都
古都大津京ゆかりの神域　～近江神宮～

日　時：令和４年９月１８日（日）　１３：３０～１６：００
場　所：近江神宮、近江勧学館
受講生：２０名
講　師：近江神宮　禰宜　岩崎　謙治 氏
協　力：滋賀大学教育学部　教授　神部　純一 氏

【講座内容】
〇オリエンテーション
〇参拝及び講話　（それぞれの参拝場所にてお話）
〇意見交換会

【概　　要】
近江神宮は、皇紀２６００年を記念して同年に相当する１９４０年（昭和１５年）に、天智天皇を祭神として創祀された神社である。映画「ちはやふる」の場面でも登場した美しい朱の楼門で、第３講のスタートとなった。

講話においては岩崎謙治氏から、楼門、外拝殿、本殿、内拝殿は近江造という独特の構造であること、天智天皇が日本で初めて漏刻（水時計）を設置したとされていることから、境内には日時計や火時計、漏刻（レプリカ）が設けてあることを、実物を見ながらお話しいただいた。境内には、近江令との所縁から、大津事件の裁判が行われた旧大津地方裁判所車寄せが移築されていることもわかり、個人で訪れていたら知らずに通り過ぎていくところであった。受講者は、建造から約８０年という新しさに驚いていたが、随所に天智天皇への崇敬が感じられるシンボルのようだと、大津の再発見となった。

【受講生の感想より】
近くに住んでいるが、創建の新しさに驚いた。競技かるた大会や裁判所の車寄せ、漏刻、皇室との繋がり等、案内していただいて改めて知ることができた。大津には歴史的な観光資源が身近にたくさんあることに気づいた。

【当日の様子】

近江神宮の参拝

意見交換会